

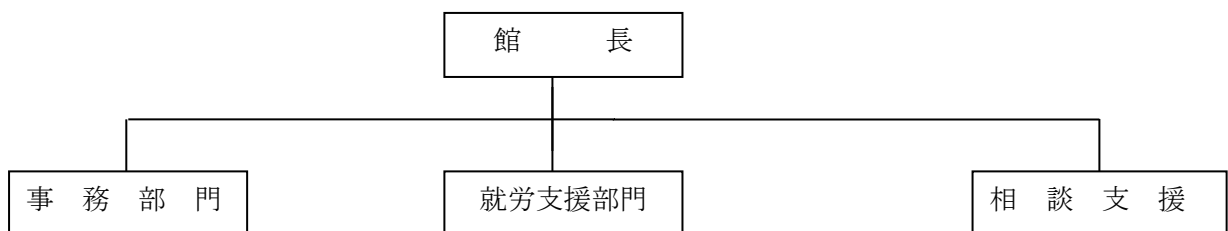
令和4年度 青松館事業報告

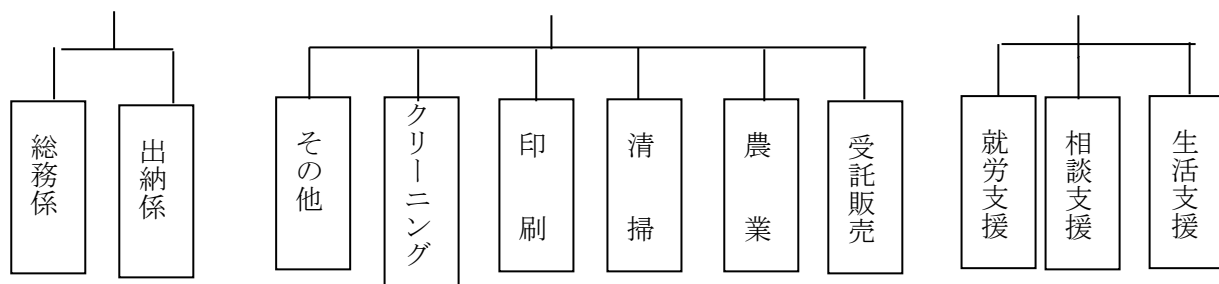
《施設の概要》

- ・ 名称及び所在地： 「青 松 館」
〒029-2206 岩手県陸前高田市米崎町字地竹沢245番地3
TEL 0192 (53) 1135 / FAX 0192 (55) 7008
- ・ 設置の種別： 指定就労継続支援B型事業
- ・ 施設の概要：
設置規模：敷地面積 1,165 m² 床面積 460.36 m² (鉄筋コンクリート造平屋建)
施設内容：作業室1・2・3 多目的ホール兼食堂 事務室 相談室 医務室
倉庫1・2 男女更衣室 男女トイレ 身障用トイレ 洗面所
定 員： 40名
- ・ 目 的：
青松館が行う指定就労継続支援B型事業の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関する事項を定め、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った、適切かつ円滑な指定就労継続支援B型の提供を確保することを目的とする。
- ・ 運営の方針：
 - 1 利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者に対して就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行うものとする。
 - 2 事業の実施に当たっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。
 - 3 前2項の他、関係法令等を遵守し、事業を実施するものとする。
- ・ 沿 革：

平成10年	7月	1日	社会福祉法人大洋会・身体障害者通所授産施設「青松館」開所 部品組立事業とクリーニング事業開始
平成14年	6月	1日	カット印刷事業開始
平成18年	6月	1日	軍手製造販売・BDF生成販売開始
平成18年	10月	1日	指定就労継続支援B型事業に移行
平成20年	10月	1日	青松館せせらぎ(分場)開所
平成21年	4月	1日	就労継続支援B型事業定員30名から40名に増員
令和2年	4月	1日	青松館せせらぎ(分場)閉所

《組織図及び職員名簿》





<職員名簿>

	職名	氏名		職名	氏名
1	館長(サービス管理責任者兼)	菅野好子	8	職業指導員	梶原真由美
2	職業指導員(主任)	村上栄輝	9	職業指導員	大和田愛子
3	生活支援員	金野留美	10	職業指導員	岩渕 希
4	目標工賃達成指導員	馬場敏次	11	職業指導員(非常勤)	(~4月)佐藤由美
5	職業指導員	(~12月)熊谷伸彦	12	職業指導員(非常勤)	原 定
6	職業指導員	寺坂寿樹	13	職業指導員(非常勤)	松田重政
7	職業指導員	金野祐菜			

1・行事報告

(1) 行事

月	日	行 事 名	場 所
4	16	お花見バスハイク	青松館
5	25	陸前高田市チャレンジデー	青松館
	28	スポーツ交流会	夢アリーナ
6	4	岩手県障がい者スポーツ大会(ボーリング競技)	盛岡市ビックハウス
7	9	バスハイク(買い物ツアー)	釜石イオンタウン
	13	高田松原海岸清掃	高田松原海岸
	23	利用者交流会	青松館
9	30	きょうされん全国大会~10/1	夢アリーナ
10	22	日帰り旅行	一関市
11	5	気仙地区障がい者作品展見学	陸前高田市コミュニ
12	17	博物館見学・忘年会	キャピタルホテル他
1	7	青松会初詣・ニュースポーツ交流会	矢作町天照大御神社他
	19	ボッチャ交流会	夢アリーナ
	20	お買い物ツアー	大船渡市
	21	お茶っ子会	青松館
	24	ボーリング交流会	気仙沼市さくらボール
2	1	いちご狩り(他、5日間)	せせらぎ
2	24	健康講話(大船渡ヤクルト様)	青松館
3	9	就労セミナー	青松館

3	25	陸前高田市消防署見学・青松会総会・慰労会	市消防署・青松館
---	----	----------------------	----------

(2) 諸会議・施設内研修

月	日	研修内容	講師
5	28	避難訓練について	陸前高田市防災局防災課 尾形補佐官、早川主事
7	14	「新型コロナウイルス感染症に係る対応について」・「心の健康を保つためのコツ」	大船渡市役所保健課 主任保健師 平野智美氏
2	18	障害者虐待防止マネージャー研修会	WEB研修

*毎月実施：職員会議・支援会議・工賃会議

(3) 研修受講状況

月	日	研修内容	参加者	開催場所
5	17	虐待防止・権利擁護研修会	1名	WEB
7	14	就労準備支援セミナー	1名	大船渡市
	29	令和4年度リスクマネジメント研修（実践編）	1名	WEB
8	11	令和4年度全国社会就労センター総合研究大会	1名	WEB
	25～26	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（中堅職員編）	1名	WEB
9	29	発達障がい研修	1名	WEB
10	4	社会福祉従事者等専門研究会	1名	大船渡市
	16	令和4年度岩手県盲ろう者通訳・介助員養成講座	1名	盛岡市
	27～28	社会福祉従事者リーダー研修会	1名	滝沢市
11	10～11	福祉職員キャリアパス対応生涯研修（初任者編）	1名	WEB
12	10	令和4年度リスクマネジメント研修会	1名	WEB
1	26	「陸前高田の在宅医療を支える会」研修会	1名	WEB
3	3	令和4年度精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業研修会	1名	WEB
	10	サービス管理責任者等更新研修	1名	盛岡市

*その他、きょうされん・圏域就労部会 WEB 会議・研修を所内にて受講

2. 実習生・研修生の受入状況

実習期間	実習者	人数
6月20日～7月1日	気仙光陵支援学校高等部2年生	1名

3. 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

(1) 市町村別

区分	陸前高田市	住田町	大船渡市	合計
合計	31名	3名	3名	37名

(2) 年齢別

区分	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	平均年齢
合計	4名	6名	3名	5名	15名	5名	53.8歳

(3) 障がい別

区 分	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	身体・知的重複障がい
合 計	9名	12名	11名	3名	2名
構成比	24%	33%	30%	8%	5%

(4) 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ	737	760	738	748	725	729	763	747	761	711	637	724	8780
実利用者	39	40	40	40	38	39	39	39	38	37	37	36	462
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
平均	33.5	33	33.5	32.5	31.5	33.1	33.	34	33.1	30.9	31.9	31.5	32.7

(5) 日課表

月 ～ 金 曜 日			
9:00～	朝礼・ミーティング・作業開始	14:30～14:45	休 憩
10:15～10:30	休 憩	14:45～15:30	作 業
10:30～12:00	作 業	15:30～15:45	整理・整頓・清掃
12:00～13:00	昼食 ・ 休憩	15:45	終 礼
13:00～14:30	作 業		

*土曜日：行事・市営住宅消毒作業のため特別時程

4. 利用者の支援状況

(1) 健康管理

実 施 日：令和4年10月6、7、11、24日

実施場所：陸前高田市広田診療所

総合判定	異常なし	要精密検査	要治療	合計
人数(名)	4	24	10	38

健診結果は、個人へ検査結果を配布するとともに、結果を踏まえて医療機関の受診勧奨を行っている。歯科健診は、被災地支援で来所いただいていた白根先生（埼玉県在住）の訪問診療を実施予定であったが、訪問直前に医師が感染したことから中止となった。インフルエンザワクチン接種は、希望者のみ希望ヶ丘病院にて、11月4、10、11、17、18日に実施。

新型コロナウイルス感染症予防対策では、毎日2回の検温の他、健康観察表による健康チェックを継続している。その他、清掃作業受託先からの指示を受けて、該当する作業従事者は、作業従事前後の検温も実施。また、感染対策に関する文書をご本人やご家族宛に配布し、室内の換気・マスクの着用・手洗い消毒・不要不急の外出自粛、外出届の提出等感染予防対策にご協力をいただいた。

(2) 就労支援事業の概況

① 概況

当年度も、新型コロナウイルス感染症による影響は継続しているものの、就労支援事業全体では増収に転じている。作業別では、これまで収入源であったクリーニング・清掃部門で減収となったが、きょうされんの全国大会の陸前高田市開催による印刷部門の増収や新たな作業受託により収入を補填し、前年度よりも増収となった。収益の面で新たな作業を受託し提供できても、作業に従事できる個々の利用者の状況を見ると、利用者の高年齢化と障がいの重度化による作業量や質の低下の課題は継続している。次年度以降も新規利用者増や従事者の育成には限界があり、障がいの状態に応じた構造化も含めて支援課題に取り組むたいと考えている。全国的な人口減少や圏域の高齢化のピークアウトの話題からも、障がい福祉サービスにおいても例外ではないと考え、利用定員や現利用者の状況に対応可能な事業内容の再編等、長期的な事業所運営の検討をすすめる必要性と再認識している。

② クリーニング部門

・売り上げは、前年度より、約110万円の減収。要因は、年度始まってすぐ5月末で気仙沼市の精神科病院からの受注が急きょ撤退することとなり、月額25万円ほどの減収となった。撤退理由は、病院から当方が受注するまでには、クリーニング業者が数社、間に入っており、その業者と病院側との契約終了となったため詳細は不明。その他、松原苑や希望ヶ丘病院にて患者・利用者様が感染拡大した際には、1カ月の収入が平常時よりも50万程度落ち込み減収となった。感染症による影響が落ち着き、宿泊施設の受注が回復してきている状況もあることから、コロナ禍前の収入額を目指しつつ、新たな受注先の開拓に向けて営業活動を進めたい。

③ 印刷業務

・取引先は、前年度と変わらず気仙管内が主で、商品ラベルシール、看板(横断幕、懸垂幕、幟旗、車両カット文字)製作、Tシャツ(ポロシャツ)プリントチラシやポスター印刷、冊子(要覧、タクシー助成券)を受注・製作作業をいただいている。当年度は、新型コロナウイルスの蔓延状況の影響もあり、講演会などの大人数が集まる機会が制限され、大型看板の受注は依然回復していないが、「きょうされん第45回全国大会 in 東北・いわて」が、陸前高田市において開催され、多くの印刷物の発注をいただき当事業所を全国へ発信できる良い機会となった。次年度は催事関係の開催が徐々に回復することが見込まれるため、クライアント様のニーズに応えるべく、多種多様な創造性と印刷データ作成のスキルアップの向上が課題となっている。

・また、資材価格の値上がりの他、これまで指名で受注できていた商品も、同業他社との見積合わせも発生しつつある状況であり、コスト削減をより一層強化する必要がある。従事する利用者が他作業部門との掛け持ちとなり、作業配置やバランスなど配慮して生産性の維持と向上に努めていかなければならない。

④ 清掃部門

(希望ヶ丘病院)

・「せせらぎ」との共同受注作業を継続し、当所から1日3~4名の利用者に職員2名が同行し作業に従事している。通年でできる作業であり、収入も一定しており、祝日にも包布交換作業がある。前年度より、感染症関連での影響は少なくなったものの、受託先様の院内感染により、清掃作業が1カ月程度停止となったこともあり、部門の減収の一員となっている。

(松原苑)

・感染症のため、委託先の都合で7月の後半より清掃作業は停止となった。それ以降年度末まで再開することなく、次年度の作業再開予定は未定である。前年度も感染症関連で作業日と収入が

安定していなかったが、当年度は、より一層厳しく部門における減収の最大要因となった。

(陸前高田市保健センター)

・今年度まで保健センターが感染症のワクチン接種会場となったこともあり、4月から2月までは、月～金曜日の午前中に清掃作業を実施。3月からは集団接種の期間が終了し、火・金曜日の週2回、午前中の清掃作業となった。利用者2名・職員1名で対応している。次年度は週に2回、火・金曜日の清掃作業となり、減収が見込まれる。

(市営住宅)

・新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年度より、陸前高田市内の市営住宅の消毒作業を年間通して株式会社寿広様より受託。作業は、日曜日と年末年始等、数日のみ休業し、多少の風雨の際も作業に従事し、年間を通じ安定した作業活動を受託することができた。次年度は、受託契約が終了となり、300万円弱の減収が見込まれている。

⑤ 受託部門

・希望ヶ丘病院へのオムツ販売は伸び悩んでいる状況は前年度から継続している。今後も大幅な増収の見込みはなく、現状を維持しつつ、仕入れ価格の値上げにも対応をしていきたい。

・缶詰のラベル貼り作業は、取引先の業績に左右されるものの、通年で受注が切れることなく受注ができ、前年度より倍増の150万円超の収入となった。クリーニング作業の合間で行える作業として受注するも、貼り付けの技術を要するため、一部の利用者に従事いただいているのが現状である。

・陸前高田市ふるさと納税の梱包発送作業では、陸前高田市様から新規参入の機会をいただき、8月からの作業開始で150万円を超える売り上げを新たに計上することができた。

・また、果樹園作業を新たに受託し、3月からは陸前高田市にあるドメニュー三日月様の果樹園作業を開始し、利用者2～3名と職員1名で米崎町・小友町にて施設外での作業を行っている。

・さらに、大船渡市のバンザイファクトリー様から、椿の葉拭き作業を新たに受注し、昨年度からの課題としていた手が空いた際に誰でも活動できる作業として提供できている。職員配置によっては、作業精度や生産性に課題もあるが、時間を有効利用できる作業として、早めに軌道に乗れるように今後も努めていきたい。

引き続き、更なる販路拡大に向け、職員が課題を共有し、問題意識を持ちながら情報収集し事業継続に努めたい。

⑥ 農産物部門

・具体的にせせらぎとの連携作業としての実績は残せていない。

⑦ 就労支援事業収入（生産）額表

(単位：円)

年度	総収入額	部門別収入額			
		クリーニング	印刷部門	清掃部門	受託販売
令和2年	40,777,046	23,869,970	5,786,356	8,047,576	3,073,144
令和3年	40,600,338	24,253,121	4,827,480	8,843,281	2,676,456
令和4年	41,986,057	23,162,224	5,797,547	7,353,050	5,673,236
当年度構成比		55.2%	13.8%	17.5%	13.5%

令和4年度工賃支給総額は、17,500,400円。利用者工賃支払いは、月に2日程度や他事業所併用者、月途中入院者を含め、月平均37,555円を支給。

5. 防災状況

(1) 自衛消防隊

	係	任 務	係 長	係 員
隊 長	通報連絡員	消防署、関係機関への通報連絡	職業指導員B	出納係
	消 火 係	初期消火活動	職業指導員A	生活支援員
館 長	避難誘導係	館生の避難誘導	防火管理者	職業指導員B
	警 備 係	逃げ遅れ者の確認、救助、延焼防止	生活支援員	職業指導員A
	救 護 係	負傷者の救護	職業指導員C	職業指導員D

(2) 訓練実施状況

実施日時	令和4年5月26日(木) 午後12時45分	訓練種別	避難訓練
訓練想定	火災発生、事務室より出火。	避難場所	第2避難所
<p>第一発見者が火災発生を知らせ、初期消火対応した。避難誘導係は利用者を第二避難所（青松館裏側駐車場）に誘導し、警備係は逃げ遅れ者の有無の確認と延焼防止に務める。今回は通報訓練を行わなかったため、通報係は利用者の避難誘導を行った。避難完了後、避難誘導係長より点呼報告を行い、自衛消防隊長に終了報告を行い訓練終了となった。火災発生より避難終了報告までの所要時間2分25秒。</p>			

実施日時	令和4年10月20日(木) 午後10時30分	訓練種別	避難訓練
訓練想定	地震発生、大津波警報発令。	避難場所	第3避難所
<p>10時30分、岩手県三陸沖を震源とする非常に大きな地震が発生。職員は大きな声で地震発生を知らせ、落下物・障害物に注意し利用者の安全確保にあたる。警備係はただちにガスの元栓を閉め、配電盤のブレーカーを下げる。1分後揺れが収まり、大津波警報が発令されたことを想定する。初期消火係はボイラー等の停止、火元の点検をし、同時に避難誘導係を中心に利用者を速やかに公用車（リフト付きバス、ハイエース他）に誘導、在館している車両に順次乗車の補助を行う。並行して車両ごとに人数の確認作業を行い、第三避難所のひかみの園へ出発。避難ルートは浸水区域を回避して行う。ひかみの園到着後、グループ毎に整列し点呼をとり、自衛消防隊長に終了報告を行う。避難に要した時間は16分26秒であった。</p>			

実施日時	令和5年2月23日(木) 午後12時45分	訓練種別	通報・避難訓練
訓練想定	火災発生、調理室より出火。	避難場所	第1避難所
<p>第一発見者が火災発生を知らせ、消火係が初期消火対応した。避難誘導係は利用者を第一避難所（シルバーセンター側駐車場）に誘導し、警備係は逃げ遅れ者の有無の確認と延焼防止に務める。自動通報装置を使って通報訓練を実施。避難完了後、避難誘導係長が点呼報告を行い、自衛消防隊長に終了報告を行い訓練終了となった。火災発生より避難終了報告までの所要時間2分56秒。</p>			

(3) 各室火気戸締り等責任者

令和4年4月～令和5年3月

箇 所	責 任 者	箇 所	責 任 者
第1作業室	職業指導員A	玄 関	職業指導員B
第2作業室	生活支援員A	内 倉 庫	出 納 係

第3作業室	職業指導員 B	男子更衣室	防火管理者
事務室	職業指導員 A	女子更衣室	生活支援員 B
相談室	出納係	男子トイレ	職業指導員 C
医務室	生活支援員 A	女子トイレ	生活支援員 B
厨房	職業指導員 D	障害者トイレ	職業指導員 D
多目的ホール	生活支援員 B	外倉庫・施設周辺	職業指導員 C

6. 苦情受付 0件

7. まとめ

利用契約者は、定員40名に対し3月末時点で37名。年度内では、契約終了者は3名で、健康不安と加齢、対人関係不安がその理由で、新規の利用契約者は1名で、以前当事業所を利用していた方が、就職後に離職し再契約となった。利用率では、令和3年度の32.8人から、当年度は32.7人へと利用率は微減。

重点事項としていた①感染症対策、②非常災害対策、③権利擁護への取組み状況は以下の通り。①感染症対策については、新型コロナウイルスに対する事業継続計画の整備、抗原検査キットの備蓄を継続し、職員には岩手県から支給のある週に2回の抗原検査を実施し都度報告している。現在も朝夕の検温と体調管理の記録等を継続し、日常から利用者のご家族からのご協力をいただきながら対策を継続している。さらには、前年度に続き希望ヶ丘病院様のご理解をいただき、希望する利用者・職員のワクチンの接種を確保いただいている。コロナ禍においても、関係各位のご理解とご協力のおかげさまで、感染者や濃厚接触者等による事業所休業は0日のまま、今日まで事業継続できている。②非常災害対策については、新たな津波被害の想定も新たに国から示されており、マニュアルを適に見直しを進め、地震・津波想定避難訓練を実施し、利用者職員とも日頃から災害を話題にしつつ活動を継続した。備蓄品の消費期限にも留意しつつ、備品管理に努めている。③権利擁護については、虐待防止委員会は活発なものとは言えないが、非常勤職員の研修受講や職員アンケート調査を実施し、職員間で不適切な言動を共有することができた。次年度以降は身体拘束の適正化も交えながら、委員会活動の有効な運用を図りたい。

従事者の状況は、職員は、4月末で契約職員（非常勤）1名、12月に正規職員1名が退職となった。離職理由は応募時の職務内容と実際の業務内容に相違があったこと、家業への専念と体調不良が主な理由と聞いている。採用の関係では、契約職員（非常勤）がフルタイムへの契約変更を希望いただいたこと、令和5年1月より、フルタイムの契約職員を1名採用し、職員配置は充足できている。感染症による休暇や有給休暇の取得も重なる等、安全なサービス提供に危惧することもあったが、職員間の連携により、今日までサービス提供を継続できている。次年度は施設外就労作業が大きく減る見込みであり、所内の体制を整えつつ、就労支援事業概況にある通り、適正な利用定員やサービス内容等、将来像を想定しながら事業展開を進める必要があると考えている。